

レモネード通信

第6号・2010.3.3発行

「歯科医師を対象とした歯と全身の健康、栄養との関連に関する研究」ニュースレター

発行人 研究責任者 若井 建志

(名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学／医学推計・判断学)

連絡先 名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学／医学推計・判断学

TEL 052-744-2132, FAX 052-744-2971

E-mail: wakai@med.nagoya-u.ac.jp

(「レモネード」とは本研究の英文名の略称 [LEMONADE] です)

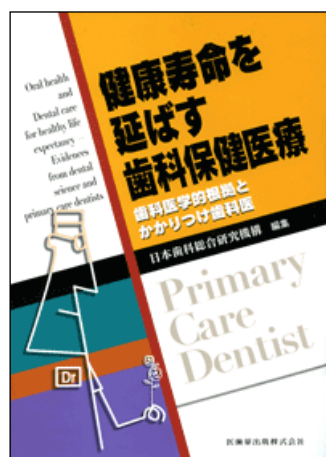
現在歯数と栄養素・食品群摂取との関連

分析結果を論文として発表し、
本でも紹介しました

前号のレモネード通信(第5号、2009.7.20発行)では、「歯科医師健康白書」調査の食事に関する詳細なアンケートから、現在歯数が多いほど大部分の栄養素、食品群で推定摂取量が多くなっていたこと、一方で菓子類と米飯類は現在歯数の少ない先生でむしろ摂取量が多かったことをご報告いたしました。

このたび、この分析結果を広く公表すべく英文論文(Community Dent Oral Epidemiol 2010; 38: 43-49)として報告させていただきました。本通信に論文の別刷を同封いたしましたので、ご高覧いただけましたら幸いです。またこの成果につきましては、日本歯科総合研究機構 編「健康寿命を延ばす歯科保健医療：歯科医学的根拠とかかりつけ歯科医」(医歯薬出版、2009年、本体4,500円)の中でもご紹介する機会をいただきました(97～103ページ)ので、本をお持ちの方はぜひご覧いただけましたらと存じます。

「健康寿命を延ばす歯科保健医療：歯科医学的根拠とかかりつけ歯科医」(医歯薬出版)



現在歯数は長寿のバロメーターか

本研究では「歯科医師健康白書」調査にご参加の先生にご回答いただいた喪失歯数と、その後の死亡リスクとの関連を検討しております。追跡調査では「歯科医師健康白書」調査(アンケート)の際のご同意にもとづき、都道府県歯科医師会事務局より、歯科医師共済制度などで把握された研究参加者の死亡についての情報を、個人が同定しうる情報は削除した上でご報告いただいております。

2009年6月末までの平均5.2年の追跡期間に、分析対象者21,151名中、666名の死亡が同定されました。喪失歯数(智歯除く)が0-4本のグループを1とした、5-9、10-14、15-19、20-28本のグループの死亡危険度(ハザード比。性、年齢、その他の交絡要因を調整し算出)は、それぞれ1.05、1.28、1.47、1.35であり、全体として喪失歯数が増加するほど死亡リス

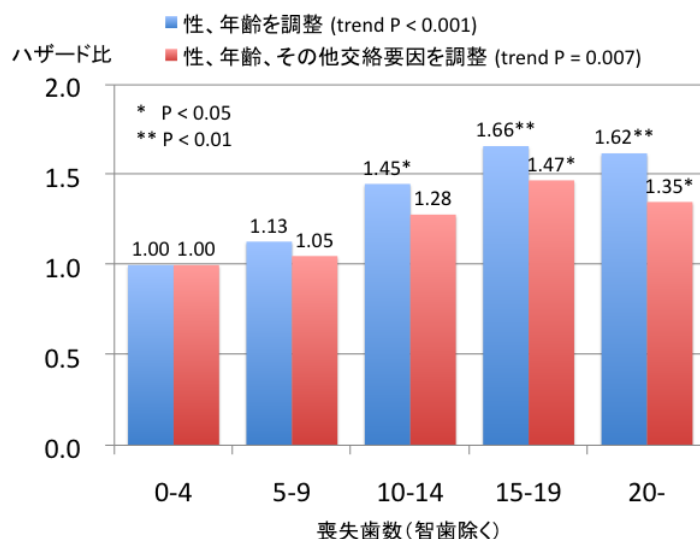


図1 喪失歯数と全死亡リスクとの関連

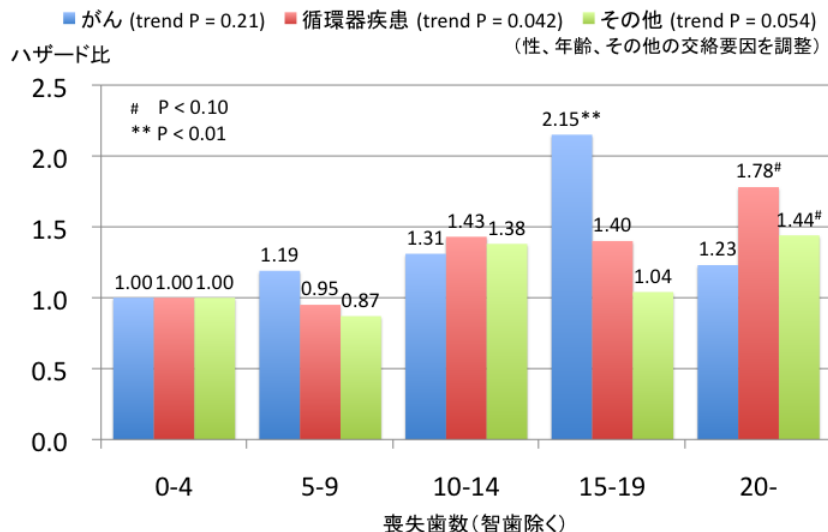


図2 喪失歯数と主要死因別死亡リスクとの関連

クが上昇する傾向が認められました(図1)。循環器疾患死亡、がん・循環器疾患以外の死亡についても同様の傾向を認めましたが、がん死亡では喪失歯数15-19本でリスクが最も高くなり、20本以上の喪失ではむしろリスクが低くなっていました(図2)。

レモネード通信 第3号でご報告した3年前の分析結果と比較して、喪失歯数が多いほど死亡リスクが上昇する傾向がより明確になり、現在歯数が長寿のパロメーターとなる可能性が強まりました。ただし平均追跡期間も5年強となったものの、ベースライン時点ですでに何らかの障害を有し、十分な口腔ケアが困難であった者で死亡リスクが高かった可能性もなお残っています。したがって今後も追跡調査を継続し、歯牙喪失の長期的な影響を検討していきたいと考えております。

追跡調査へのご協力、追跡調査期間延長へのご理解ありがとうございます

本研究では口腔の健康が全身の健康に及ぼす影響を調べるため、都道府県歯科医師会を通じて追跡調査を行っております。これは事務局に、歯科医師共済制度などで把握された研究参加者の死亡や疾病罹患状況のご報告を、個人同定可能な情報を削除した上でお願いするものです。本年度も追跡調査を実施し、これまでに2009年6月までの追跡調査をほぼ終了

いたしました。長年にわたってご協力をいただいております都道府県歯科医師会事務局の皆様方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

また本研究は当初、2009年3月末(一部の県歯科医師会では2010年3月末)まで追跡調査を実施する予定でした。しかし近年の研究成果から、口腔の健康が全身の健康に影響を及ぼす影響を検討するには、10年以上の長期にわたる観察が必要であることが明らかになりつつあります。そこで今回、都道府県歯科医師会の先生、事務局の皆様方のご理解をいただき、さらに5年間(2014年または2015年3月末まで)追跡調査期間を延長することといたしました。期間延長にあたりましては、会員の先生へのお知らせの手続きなどで大変お世話になりました。

これまでに全国平均で約5年半の追跡調査が終了し、歯牙喪失と全死亡および主要死因や肺炎による死亡、また脳血管疾患・虚血性心疾患・大腿骨頸部骨折(高齢者では寝たきりの原因となりやすい骨折)罹患との関連についての中間解析も実施しております。追跡調査の成果につきましても順次公表していきたいと存じますので、今後とも追跡調査にご理解、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。なお、追跡調査は都道府県歯科医師会事務局において実施しておりますので、ご参加の先生に直接お問い合わせをすることはございません。